

青木 嚴議員



マップ上の避難誘導は
岩海岸地区の避難町民
を、津波の脅威から守れ
る場所があるのか疑問で
ある。

岩地区 真鶴港地区の
町民を迅速に避難するた
めの具体的な対策を考え
ているのかについての町
長の見解は。

海に面してゐる 町だからこそ! 「津波ハザードマップ」における 津波避難対策について

？県が公表した真鶴町の浸水予測区域範囲は、南関東地震を想定したもので、1923年の関東大地震の再来型でマグニチュード7.9想定され津波の高さは、最大で5mから6mの津波が予想され

警報が間に合わず季節によつては、多数の遭難者が想定される。

沖防波堤が整備されてもマップ上の津波対策には、琴ヶ浜と岩海岸での避難対策に甘さがあると思われる。

関東大地震は神奈川県西部地震が同時発生した地震であったという事実があり、神奈川県西部地ある西相模湾断裊を起こした地震活動である。

自治会の中での連絡体制なども大切なことです。町としても、沿岸地域の自治会と協力をとりながら、さらに具体的な方策を講じていきます。

津波が発生した場合、気象庁が津波警報や注意報を発表すると同時に、人工衛星を利用した全国瞬時警報システム、ジエー・アラートにより防災行政無線を使い放送をします。

多くありますので、これで大丈夫というものはありません。

核シェルターのようない
ものを、各家庭の沿岸地

こういったことを研究、検討していくことが大切だと思います。関東大震災の教訓を皆さんにも進めていただきたい、地域住民の生命財産を守れるようにしていきたいと思っています。

？観光で真鶴町に来て
も、出された料理の魚が輸入物や県外のものであった
りしては、わざわざ真鶴町に料理を食べにくる意義
が半減する。観光客からも「がっかりした」という
声を聞いている。

真鶴に来たのだから、
真鶴の地のものを食べた

食店組合といつた各団体と協議を行い、実施に向けたガイ

迷惑防止条例できれいに 安全な海を守ろうう 「釣り客のマナー向上について」

残念ながら、必ずしもすべての釣り客や磯遊びの人たちのマナーが良いわけではない。ごみのポイ捨てや、釣り糸・釣り針の放置や、不法なたき火など、残念な行為が目につく。モラルだけで守ることが難しい現状だと思う。

村田知章議員



品を使用している飲食店を「認証マーク」といって、地産地消の観点からも大変良いことだと考えます。商工会、観光協会、飲食店組合といつた各団体と協議を行い、実施に向けたガイドラインを作り、導入を行います。迷惑防止条例を守ることが難しくなると思う。

A black and white photograph showing a wide beach leading towards a large body of water. In the background, a long bridge spans across the water. The foreground is filled with white, low-growing flowers and some dark, textured rocks or driftwood on the left.

客のマナーを向上させるために、「町としても「迷惑防止条例」として海岸利用のルールを定めるべきだと思うが。

